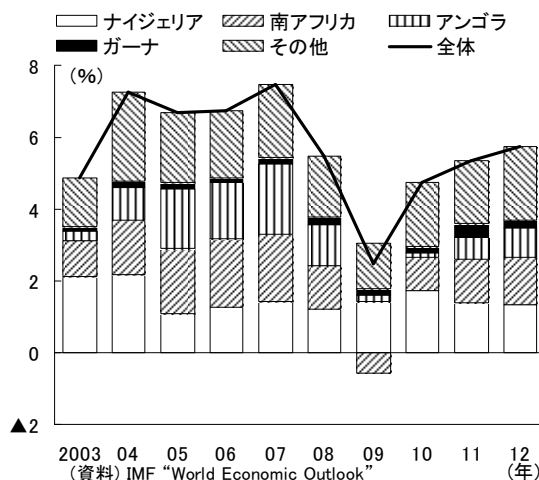


成長加速するサブサハラ

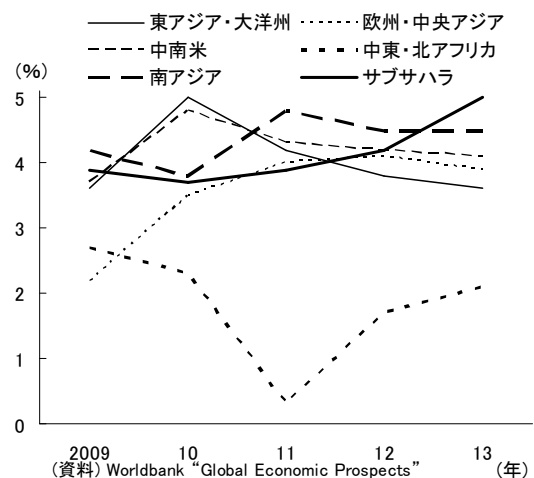
～ 投資主導型高度経済成長が視野に ～

- (1) 新興國中、このところサブサハラの台頭が顕著。最新のIMF予測によると、リーマン・ショック後、2009年に2.5%まで低下した成長率が10年に4.7%へ上昇(図表1)。さらに、11年は5.3%、12年には5.8%と6%成長が展望。国別にみると、南アフリカ、ナイジェリア、アンゴラの3カ国が牽引。
- (2) 原動力は豊富な資源に着目した海外からの資本投資。主な途上国エリアについてGDP比で対比すると、サブサハラは今後投資に拍車がかかり、13年に投資規模が最大へ(図表2)。なお、主な国について本年の新たな資源開発予定をみると、ガーナは原油、ザンビアは銅、モザンビークは石炭、ガボン、リベリアは鉄鉱など新たな鉱山が発見。加えて、近年の投資は資源開発にとどまらず、半製品や製品の製造拠点、あるいは消費市場の拡大を見越した物流拠点やショッピングモールなど幅広い分野に拡大。
- (3) 需要サイドをみると、大半の国では所得水準が低く消費市場が未発達(図表3)。しかし、ハイペースの経済成長に伴い2010年代半ばには相当数の国で消費市場が立ち上がる見通し。とりわけ、人口規模が大きいアンゴラ、ガーナ、ナイジェリアがリード役に。
- (4) サブサハラは従来のモノカルチャー型低成長から大きく脱却。投資が消費拡大とさらなる投資の誘因となる、いわゆる投資主導型高度成長が視野に。

【図表1】サブサハラの実質経済成長率(IMF)



【図表2】途上国向け資本流入(対GDP比)



【図表3】サブサハラ諸国の1人当たりGDPと実質経済成長率

【2010～11年平均成長率】



【2012～16年平均成長率】

